

## 平成27年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Aチーム

提案内容	提案名	挑戦しよう！鯖江で ～鯖江キャンパス設立～
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Aチーム「BASABASA」
	提案内容	鯖江市に貢献できる人材を育成するため鯖江でフィールドワーク型講座を開講する
	概要	<p>鯖江＝「挑戦できる町」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者への補助金、学生受け入れやJK課、活動的な市民団体、チタン加工技術や漆器産業市民が考える鯖江市</li> <li>・雇用の選択肢が限られている、若者が集まる場所がない、交通が不便 ⇒若者の流れを生み出せない</li> </ul> <p>○鯖江キャンパスの設立</p> <p>教育目標：鯖江市に貢献できる人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市と明治大学が連携し、現地フィールドワーク型集中講座を開講</li> <li>・地方創生に意欲的な大学や外国人学生とも連携 ⇒地域の活性化に貢献できる若者の移住・定住につながる</li> <li>・JK課や学生団体との交流、市民を講師とすることで地域との交流ができる</li> </ul> <p>○課題：活性化が一時的、市の負担増、海外大学と連携する際の言葉や文化の壁</p>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が集まることで宿泊施設として空き家を利用でき、交通手段としてバスの需要が高まる</li> <li>・産業や文化など鯖江の魅力を発信できる</li> </ul>	
検討結果	判断	一部採択
	形態	既存事業に組入れ
	採択年度	新年度（H28年度）から実施
	事業詳細または不採択理由	<p>現在、明治大学をはじめ、プランコンテストの学生や金沢大学の学生など、市内で活動している各学生が市内の事業を理解するため、その都度、市長や商工会議所会頭、市役所担当職員などから説明を受けている。</p> <p>まずは、明治大学と金沢大学での活動について、テーマが一致する部分に関して、第一線で活躍する地元住民や市内企業の担当者等の講師を招いた共同の学習の場を設けることを検討する。また、他大学に対しても募集し、大学間の交流を図る。</p>

## 平成27年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Bチーム

提案内容	提案名	河和田に住もう！！～農業と伝統文化の魅力を最大限に伝えよう～
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Bチーム「さばえっ子」
	提案内容	<b>河和田地区独特の魅力を発信し移住者の増加につなげる</b>
	概要	<p>○河和田に注目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統産業の漆器があるが、人口が少ない地域</li> <li>・雇用が少ない、生活インフラが少ない、交通のアクセスが悪いという課題</li> </ul> <p>⇒生活圏としての魅力を発見し、河和田を新たなベッドタウンモデルとする Iターン・Jターン移住者に河和田地区独特の魅力を伝える 農業：兼業農家や家庭菜園を楽しんでいる。朝市やJAでの販売、おすそ分けでのコミュニケーションが形成 漆器：休日に漆器体験ができる。空き家や蔵を漆をつかって改築するうるしの家シェアハウスができる。 食文化：報恩講料理などの伝統料理を受け継ぐ。食の安全、健康的な生活 河和田アートキャンプ：若者とのつながりがある。 清水・温泉：ふくいのおいしい水に日展された桃源清水や三場坂清水、ラポーゼかわだの温泉</p> <p>⇒新たなベッドタウン：仕事から帰って寝る場所ではなく、余暇時間に漆器や家庭菜園が楽しめる</p> <p>○発信方法 地域おこし協力隊、農村インターン、物産展、河和田で開催されるイベントなど</p>
期待される効果	・生活圏としての魅力を発信することで、ベッドタウンとしての移住につながる	
検討結果	判断	一部採択
	形態	既存事業に組入れ
	採択年度	今年度(H27年度)から実施
	事業詳細または不採択理由	<p>・河和田くらし巡り等のイベントの参加者や鳥獣害対策と農業を体験するツーリズムに参加した学生等に河和田地区の漆器や食文化など、生活の魅力を発信している。そのほか、季節の旬の食材を使った河和田地区の伝承料理をまとめた料理帖を作成・発行し、昔ながらの暮らしの魅力を発信する。また、河和田地区の風土・自然・暮らしなどをPRする動画サイトを作成するとともに、区内の企業・事業所や地区内外で活動する団体に活用してもらい、河和田地区の魅力を発信する。</p> <p>・河和田地区では、軒下工房などものづくりの見学や職人とのふれあいの場を提供し魅力を積極的に発信してきた。また、今年度は”ものづくりのまち”鯖江市河和田地区で活動するメーカーやクリエイターといった作り手たちが一同に工房を開き、作り手の思いやものづくりの背景に触れながら商品を購入できる体験型マーケットを実施している。今後も地域の特色を独特の魅力を発信できるように地域住民や関係機関とともに観光資源を磨いていきたい。</p>

## 平成27年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Cチーム

提案内容	提案名	めがねを感じる ～やっぱり鯖江の眼鏡がNO.1～
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Cチーム「めがさば。」
	提案内容	<b>めがねを地域の誇りにするため、街中にめがねを感じられるような施策を展開する</b>
	概要	<p>若者が住みたくなる・住み続けたくなる地域＝地域ならではの魅力がある＝めがね          事業者には眼鏡は産業という意識が強く、移住者は街中に眼鏡を感じられないという意識の差          ⇒産業から文化、地域の誇りへと意識を変えていく必要がある。</p> <p>○街中にめがねを感じられる施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めがねアート(田んぼ、ベンチ、植木鉢)</li> <li>・駅の外装整備</li> <li>・めがねストリート</li> <li>・案内板(トイレマーク、駅名)</li> <li>・バス停やタイヤのペイント</li> <li>・めがね工場の見学や体験</li> <li>・めがねパンなどの給食メニュー化</li> <li>・体操服にめがねのロゴを入れる</li> <li>・めがねのデザインの遊具</li> <li>・側面に歴史やデザインを記載しためがね階段の設置</li> <li>・アートデザインの公募 など</li> </ul> <p>○若年層向けの眼鏡教育を長期的かつ確実に続ける</p>
期待される効果	・街中でめがねを感じることができるようになり、めがねは地域の誇りであるという意識が芽生える	
検討結果	判断	一部採択
	形態	既存事業に組入れ
	採択年度	開始年度未定
	事業詳細または不採択理由	<p>・市が全体的なイメージ戦略として、「めがねのまちさばえ」を表現する公式なロゴマーク等を制作するのであれば、コミュニティバスのバス停標柱にペイントすることは可能。</p> <p>・一般消費者の体験については、眼鏡用樹脂素材を使ったストラップづくりや、眼鏡造り体験を実施中。めがね工場見学については、以前より業界内で実現に向けて検討しているが、見学対応に要するコストや機密管理の面で実現には至っていない。イベント期間中に限定した工場開放を眼鏡協会内で検討中。</p> <p>・現在週1回小学校では、パンを提供しているが、パンを提供する会社がコスト、時間等のことから対応できるかを検討する必要がある。</p>